

熊本地震 緊急・復興支援レポート



**震災から1年
復興の歩みを支え続ける**

2016年4月に熊本県で震度7の地震が発生してから1年。

4月15日には被災地に入り、ニーズ調査に基づいた緊急支援を開始。学校再開後は復興支援を行ってきました。刻々と変わるニーズへの迅速な対応や、被災状況に応じた柔軟な支援、中長期的な視点に立った行政や地域との連携、より困難な状況にある子どもへの配慮、そして、地域の一員である子どもの意見の尊重など、5年間にわたる東北での緊急・復興支援活動の経験や知見が役立てられました。

皆さまのご支援のもと行ってきた緊急・復興支援を通して、2017年2月末までに約18,100人に支援を届けることができました。これからも、災害時に子どもたちがいち早く回復できるよう活動していきます。

緊急支援

◆緊急支援物資の提供

子どもや保護者のニーズに基づき、7大アレルギー不使用の離乳食やおしりふき、母乳パット、ぬいぐるみなどの緊急支援物資を、行政や企業との連携のもと、益城町の避難所を中心に配布しました。

◆「こどもひろば」の開設・運営

「こどもひろば」は、災害などの緊急時に、子どもたちが遊びなどを通じて、日常に近い生活を取り戻せるようにする、子どものための安心・安全な空間です。益城町の避難所5ヶ所に「こどもひろば」を開設し、行政や学校、学童保育指導員、地域住民の協力を得ながら、5月初旬の学校再開まで運営を行い、のべ約2,100人の子どもたちが参加しました。



～子どもの声～

（避難所は）なかなか騒げる雰囲気じゃないから、「こどもひろば」も思いっきり遊べてうれしい。

～保護者の声～

私たち家族は、車中泊の避難生活をしているのですが、子どもは「おうちがぐちゃぐちゃ」「おうちに帰りたい」と泣くこともあります。そんな状態の中で、この「こどもひろば」があるのは本当に助かります。ここに来ると楽しんで遊んでいて、戻ってくると、「折り紙したよ！」と嬉しそうに話してくれるんです。

◆「子どものための心理的応急処置（子どものためのPFA）」の実践と啓発

災害時にストレスを抱えた子どものこころを傷つけずに対応するための「子どものためのPFA」や、「避難所でもできる遊び」に関する特設情報サイトを開設。

「こどもひろば」などの緊急支援において「子どものためのPFA」の手法で子どもたちに対応すると同時に、災害支援関係者や子ども・子育て支援者を対象に研修を実施しました。



復興支援 ～教育～

◆給食支援

給食センターが被災した益城町の全公立小中学校 7 校を対象に、5 月にはパンと牛乳のみとなった簡易給食に、チーズやゼリーなどの補食メニューを支援。また、6 月以降は、保護者の経済的負担を軽減するために、弁当給食の費用の一部を支援しました。



◆学用品や学校備品の提供

震災前の学校生活を取り戻せるよう、益城町の被災した小・中学生に、制服や運動着、水着、部活動の備品を配布。また、益城町および御船町の小・中学校 5 校に体育や部活動で使う備品やエアコンなどを提供しました。

◆学校活動への支援

益城町の中学校 2 校で職場体験の際に必要な交通手段や、益城町の中学校 1 校の吹奏楽部が全国大会に出場するための遠征費を支援しました。



復興支援 ～教育/子どもの貧困～

◆給付型緊急子どもサポート：給付金の提供

子どもの貧困問題解決事業の経験を生かし、経済的な支援に取り組みました。震災の影響で経済的な負担が増して厳しいとの保護者の声を受け、子どもたちの生活に不可欠なものを補えるよう、住宅が一部損壊以上もしくは経済的に困難な状況下にある子どもたちに給付金を提供しました。

－夏休み応援キャンペーン

益城町の中学 3 年生 266 人に、夏休みの学習や文化・スポーツ活動に対する給付金 5 万円を支給。

－修学旅行応援キャンペーン

益城町・御船町の中学 2 年生 227 人、熊本県内の定時制高校の 3 年生 16 人に、修学旅行費全額を支給。

－高校卒業応援キャンペーン

益城町の高校生 241 人に、進学・就職の準備のための給付金 5 万円を支給。

～子どもの声～

無駄なく、大切に使いたいと思います。今、自分ができることを精一杯やりたいです。

～保護者の声～

家の修理や家財の買い替えで出費が多くあり、子どもの費用の捻出に苦労していたので、とても助かりました。

復興支援 ～子どもの保護～

◆放課後児童クラブ（学童保育）への支援

子どもたちの放課後の居場所である学童保育の指導員に対し計 4 回の研修を実施し、のべ約 230 人が参加。また、被災した 2 つの学童保育の仮設プレハブ建設にあたり、工事費用の一部を支援しました。

◆保育所などへの支援

園舎が被災し、間借り保育を行っていた益城町の保育所に対し、給食に必要な紙皿やお茶を支援しました。仮設プレハブ園舎に移った 9 月以降は、遊具や下駄箱、マットなど保育に必要な備品を提供。子育て支援施設や児童館にも備品を提供しました。

復興支援 ～子ども参加～

◆子どもまちづくりリーダーツアーの実施

益城町をはじめとする県内の小中高生 30 人が、復興に向けたまちづくりについて考え、「夢のまちプラン」を作成。子どもたちは、後日開催した報告会や災害 FM 等を通じて、「夢のまちプラン」を町長や教育長をはじめ行政や学校関係者、保護者、地域住民等に発表しました。



◆東北の子どもたちとの活動

9 月に仙台で開催した「第 7 回東北子どもまちづくりサミット」や 11 月に東京で開催した報告会にて、東北の子どもたちとともに、復興や防災に対する思いを発信しました。

復興支援 ～防災～

◆防災用品の配布

余震に不安を抱く子どもや保護者、教員等の声を受け、非常時の備えを強化して安心・安全に過ごせるよう、上益城郡 5 町、西原村、南阿蘇村で防災用品を配布。幼稚園、保育所、小中学校、学童保育にて、防災ずきんや非常用持出袋などを約 15,000 人に対して提供しました。

◆防災教育研修・出前講座の実施

8 月には山都町の小学校の教員を対象に、東日本大震災の経験をもとに開発・制作した防災教育教材を活用した研修を実施。さらに益城町の学童保育クラブ 8 ヶ所にて、子ども向けの防災出前講座を行いました。



～子どもの声～

今回の地震で、改めて命の大切さを実感しました。命を大切に
して、勉強や運動にがんばります。